

小野田中学校 仮入学式

小野田・須恵の両小学校から新入生を迎える小野田中学校で、129人の新一年生を対象に仮入学式が行われました。同校では毎朝1分間の黙想を行い授業に臨むのが伝統。式で体育館に集まった子どもたちもさっそく伝統の黙想を体験すると、小学校とは違う雰囲気にとまどったのか、その後は少し緊張した面持ちで先生たちの話を耳を傾けていました。そんな中、生徒会長の藤川智平君(2年)が「みなさんの入学を楽しみに待っています。」と歓迎の言葉を贈り、「小中三本柱」(時間厳守、校内美化、人権尊重)と呼ばれる学校生活の規律を分かりやすく説明した寸劇を披露。笑いを交えながらの学校紹介に、それまで張りつめていた空気が和らぎました。

最後に、新しい教科書が一人ひとりに配られると、子どもたちはそれを何度も開いたり閉じたり。今までより分厚くなった教科書を前に、気持ちも引き締まったことでしょう。4月の入学式を前に、来たるべき中学校生活への希望膨らむ仮入学式となりました。

元気



いっぱい!



▲新しい学校生活を前に期待と不安でいっぱいの仮入学式。



▲生徒会執行部の先輩たちの寸劇による学校紹介。



▲ドキドキしながら新しい教科書を手に入れます。

夢

いっぱい!

「幼児期が大切だということを
実感させられた一年でした」



埴生幼稚園で一年間研修した小学校教諭
野村京子さん(埴生小学校)

埴生幼稚園の園児に囲まれ、一緒にお手玉をしながら朝の時間を過ごしているのは、埴生小学校の野村京子先生。なぜ小学校の先生が幼稚園に?それは、県が平成16年度から始めた『幼児教育長期研修』に参加しているからです。この取組みは、子どもの“育ち”は連続しているという捉え方のもと、幼・保育園と小学校の連続・一貫した指導ができる人材を育成するため、小学校教諭を幼・保育園へ長期間派遣するものです。

野村先生は、平成17年度の一年間、埴生幼稚園で年長組の補助教員として、園児の“育ち”を間近で見守ってきました。場所の近い埴生小学校と埴生幼稚園の間では、これまでも年に数回の交流行事が行われていましたが、普段の幼稚園についてはあまりよく知らなかったそうです。「4月には鬼ごっこが長続きしなかった園児たちも、今では友達と一緒に共通のルールに沿って、長い時間遊ぶことができるようになりました。園児は遊びを通していろいろなことを学んでいるんですね。そして幼児期に体験することが多いほど、小学校で教科学習を始める際に興味をもつ度合いも高くなるのではと気づきました。」と、実り多き一年間を振り返りました。

「子どもたちが幼児期に何を体験し、小学校にあがった時にどんなスタート地点に立っているのかを知っていることにより、接し方が変わってきます。小学校に戻ったらこの経験を生かしていきたいですね。」と話す野村先生。4月から新1年生として入学してくる年長組の園児たちを心待ちにしているようです。